

仕 様

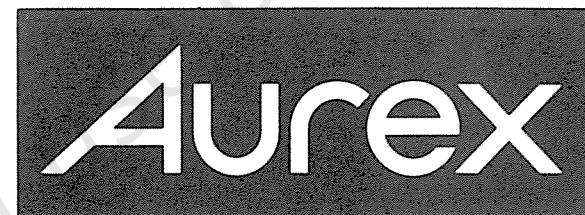
電 源	AC 100V 50/60Hz 共用
消 費 電 力	5 W
チャ ン ネ ル 数	2 チャンネル (録音再生切換)
入力インピーダンス	50k Ω
基 準 入 力 レ ベ ル	150mV (アドレス基準レベル)
基 準 出 力 レ ベ ル	150mV
負 荷 イ ン ピ ー ダ ン ス	10k Ω 以上 内蔵発振器 1 kHz 150mV (アドレス基準レベル)
周 波 数 特 性	エンコード(REC), デコード(PLAY)において20Hz~20kHz \pm 1 dB
入 力 換 算 ノ イ ズ	-100dBm以下
歪 率	エンコード(REC) デコード(PLAY)において0.15%以下(アドレス基準レベル)
ア ド レ ス 効 果	最大録音レベル(1 kHz) 約 7 dB改善 ノイズレベル (10kHz)30dB以上低減 (1 kHz)20dB以上低減 (100Hz)17dB以上低減
入 出 力 ジャ ッ ク	歪 率 (400Hz,0dB) 約 2 分の 1 に改善 エンコード INPUT (AMPLIFIER REC \rightarrow) (REC) REC (DECK LINE IN \rightarrow) デコード PLAY (DECK LINE OUT \rightarrow) (PLAY) OUTPUT (AMPLIFIER PLAY \rightarrow) ACアウトレット 100V 150W
外 形 寸 法	A D-3, 3 S 420(幅) \times 57(高さ) \times 205(奥行) A D-15, 15K 257(幅) \times 54(高さ) \times 206(奥行) (ゴム脚, ツマミ含む)
重 さ	A D-3, 3 S 2.3kg A D-15, 15K 2.1kg
付 属 品	接続コード (PIN-PIN) 2 調整用ドライバー 1

* 本機の仕様および外観は改良のため、予告なしに変更することがありますがご了承ください。

Aurex 東京芝浦電気株式会社
音響事業部 オーディオ営業部
〒104 東京都中央区銀座5-2-1(東芝ビル内)
TEL. (03) 574-5235

ご購入年月日	年 月 日
ご購入店名	
TEL	

お客様へ…おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。



AD-3
AD-3S
AD-15
AD-15K

adres (アドレス) ユニット取扱説明書

- 保証書を必ずお受けとりください。
- このたびは、オーレックスアドレスユニットをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。お求めのアドレスユニットを正しく使っていただくために、お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、必ず保存してください。

各部のなまえとその働き

このイラストはAD-15です。

●各モデルの大きな相違点は次のとおりです。

- ①横巾 420mm AD-3/3 S
257mm AD-15/15K
- ②フロントパネル色
黒 AD-3, AD-15K
銀 AD-3 S, AD-15

■ [POWER] 電源スイッチ

電源スイッチ

ボタンを押すと電源が入り、パワーインジケータが点灯します。

■ [MPX] MPXフィルタースイッチ

FM放送をアドレス録音するときは、このボタンを押してください。チューナーに19kHzのステレオパイロット信号の漏れがある場合にも、誤動作することなくアドレス録音をするためのスイッチです。

■ [RECORD/PASS/PLAY] アドレススイッチ

アドレススイッチ

録音をするときには「RECORD」アドレスを使用しないときは「PASS」、再生するときは「PLAY」に切り換えて使います。

■ パワーインジケータ

■ キャリブレーション調整用インジケータ

■ [REC LEVEL] 録音レベル調整ツマミ

録音レベル調整ツマミ

録音レベルを調整するツマミです。奥のツマミが右チャンネル用、手前が左チャンネル用です。アドレススイッチが「PASS」のときは、このツマミは関係ありません。

■ キャリブレーションインジケータ

■ [CAL] キャリブレーション ボタン

このボタンを押して、アドレス録音するテープの頭に、アドレス信号を-3dB (0dB:160pwb/mm)で20秒程録音してください。あとでアドレス再生をするときに、アドレス基準レベルを正しく調整するために、もう一度押していただきます。

■ [PLAY] キャリブレーション用プリセットボリューム

アドレス録音したテープを再生するときに、誤動作しないよう、アドレス基準レベルを合わせるためのものです。テープの頭に録音されたアドレス基準信号を、キャリブレーションボタンを押して、正しいレベルになるよう調整してください

✖ レベル不足……① 右へ回す。

✖ レベル過大……① 左へ回す。

✖ OK……アドレス基準レベルに合っています。

■ [OUTPUT] 出力端子 ※

アンプのTAPE/PLAY (テープ再生入力)端子とつながります。デコーダーからの出力端子です。

■ [INPUT] 入力端子 ※

アンプのREC (録音出力)端子とつながります。エンコーダーへの入力端子です。マイク録音する場合のミキサーのライン出力は、ここにつないでください。

■ [PLAY] 再生端子 ※

デッキのPLAY/LINE OUT出力端子とつながります。デコーダーへの入力端子です。

■ [REC] 録音端子 ※

デッキのREC/LINE IN入力端子とつながります。エンコーダーからの出力端子です。

■ [UNSWITCHED] 予備コンセント

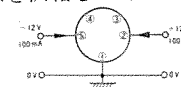
予備コンセント

AC100Vをとれるコンセントです。アドレスユニットの電源スイッチに関係なく、150Wまでの機器に電源を供給できます。

■ [DC IN ±12V] 外部DC電源入力

外部DC電源入力

DC電源で駆動するときの入力端子です。このプラグを使って、次のようにDC電源を供給してください。



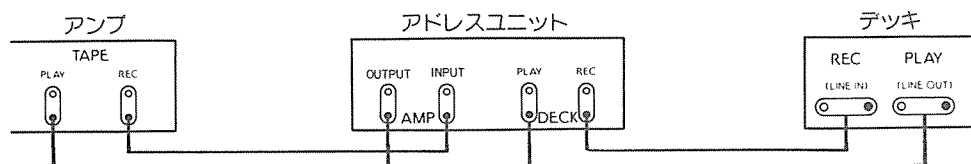
※印の各ピン端子の下文字は、接続するアンプ、デッキの端子を示します。

使いかた

1. つなぎかた

まず下図のように結線してください。

まず下図のように結線してください



○付属のピンコードを使って、図のように確実につないでください。

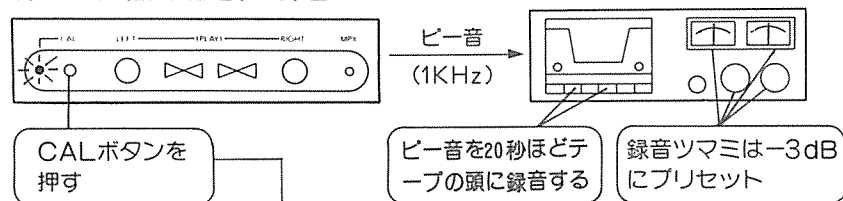
○ピンコードは赤いプラグを右〈R〉チャンネル用、黒いプラグを左〈L〉チャンネル用と決めておくと、接続ミスが防げます。

2. レベル合せ

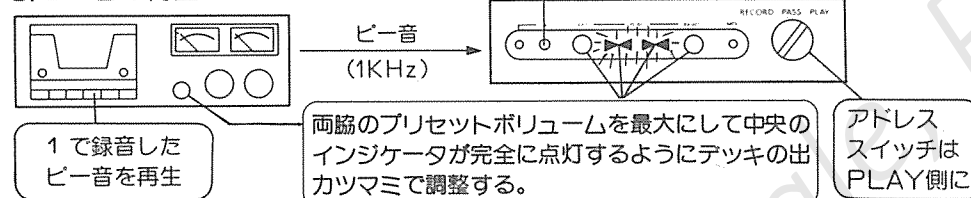
(CAL) アドレス録音されたテープの互換性を保つためにレベル合わせが必要です。

お使いになるデッキとのレベル合わせをしておきます。

1. ビー音(基準信号)の録音



2. ビー音の再生



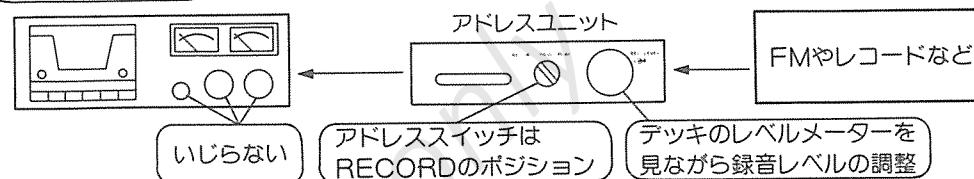
左右の微調整を行うときやデッキの出力ツマミのないものについては、プリセットボリュームで調整してください。

以上でレベル合わせは完了です。CALボタンを元に戻してください。なお、一度合わせたデッキ側の録音ツマミと出力ツマミは調整後動かさないでください。

- 出力調整ツマミによってレベルメーターの指示が変わるデッキの場合は、基準信号を再生したとき-3dBとなる点に、出力調整ツマミをプリセットしてください。
- 中央のインジケータが時々点滅することがありますが、そのときは、デッキのヘッドを掃除したり、テープの種類を変えるなどとしてご使用ください。
- デジタルメーターで-3dBのレベルをプリセットする場合、録音ツマミを徐々に上げながら、-3dBの発光ダイオード(LED)が点灯するように調整してください。(レベルメーターに-3dBの目盛がないときは、0と-5dBの中間点で合わせてください。) このビー音を再生したときL/Rでレベル差がでることがありますが、アドレスユニットのプリセットボリュームで補正しますので性能には問題ありません。
- ドルビーレベル()マークでメーターに指示されているレベルが、メーターのOVU (通常のデッキは+3VU) であるデッキは、メーターの-6VUの点にCALのレベルを調整してください。
- DOLBYと は、ドルビーラボラトリーの商標です。

3. 録音開始

録音レベルの調整は、アドレスユニットの録音ツマミで行ってください。



- レベル合わせのときに録音したアドレス基準信号は、再生時または他のデッキでレベル合わせするときのために、消さないで置いてください。
- アドレス録音しているとき、デッキのレベルメーターはエンコード(圧縮)された信号で振れていますので、振れかたが小さくなります。
- VUメーターなら-15~-20dBくらい、ピークメーターなら大きくても-5dBくらいのレベルセットをすると、S/N比も音質も良い録音ができます。
- テープデッキのヘッドホンジャックでモニターしますと、エンコードされた信号を聞くことになります。正しい音をお聞きになりたいときは、アンプの〈SOURCE〉ポジションでモニターしてください。
- FM放送を録音するときには、19kHzのMPX(ステレオパイロット)信号による誤動作を防ぐため[MPX]スイッチをON(押す)にしてください。

4. 再生

アドレススイッチをPLAYに切換えてから再生してください。

- 再生レベルの調整はテープデッキの出力調整ツマミではなく、アンプの音量調整ツマミで行ってください。テープデッキの出力調整ツマミを動かすと、プリセットしたキャリブレーションレベルが変化して、音質が損なわれることがあります。
- アドレス基準信号(ビー音)のレベル調整は、このときに行ってもかまいません。

5. パス (PASS)

- アドレス録音、再生しないときはアドレススイッチは〈PASS〉にしてください。全ての操作はデッキだけで行えます。

6. ダビング

- アドレス録音したテープを他のデッキにダビングする場合は、〈PASS〉にしてアドレス録音のままでダビングすると、雑音の少ない録音ができます。ただし、そのとき、デッキ相互間の2.レベル合せと同様にキャリブレーションレベルは正確に合わせてください。

ご注意

- アドレスユニットはオープンデッキにも使えます。より性能の良いデッキに使うほど、アドレスの効果は増します。
- テープデッキの周波数特性がよくないと、アドレスをかけたときよい音でお聞きになれないことがあります。いつもヘッドの汚れなどには気をつけ、クリーニングを行ってください。
- ハイファイテープなど質の高いテープを使い、テープデッキのバイアスやイコライザーもそのテープに合わせてアドレスの効果は最大に発揮されます。テープセクターの位置を間違えないようにしてください。
- アドレスはテープへの録音・再生の過程で生ずるヒスノイズなどを低減するものですから、入力信号にすでに含まれているノイズは減らせません。質の高いソースを選びますと、アドレスの効果は最大に発揮されます。
- 場合によってハム音が出た場合、デッキやアドレスユニットのコンセントの差し込みかたを逆にしたり、置き場所を変えてみてください。
- 3ヘッドのデッキと組み合わせて同時モニターするときは、2台のアドレスユニットをご使用ください。